

僕の受験はまさしく挫折の連続だった。現役時代、志望校を早慶に定めて僕なりに一生懸命勉強してきたつもりだった。しかし模試での志望校判定は常にE判定。D判定すらとることができず受験当日を迎えた。今思えばそんな状況の中で僕は内心では志望校をあきらめていた。漠然と「早慶に落ちて滑り止めの大学には受かるだろう・・・」と思っていた。しかし結果は12月の直前の模試も含めてずっとA判定だった滑り止め大学に落ちたのを初め、結局受験した大学すべてが不合格だった。

「変わらない現実、涙が止まらなかった。」

その後、名古屋で一人塾の寮に入って一人で浪人することを決めた。浪人中は現役時代苦手だった英語をずっと勉強した。毎日朝起きて食事をしたら塾の授業を受け、授業の合間は自習室で勉強、帰って食事を済ませたら自室で勉強するという生活を繰り返した。辛く辛い毎日だったが、「これだけ勉強したのだから成績は伸びるに違いない」と思った。しかし夏が過ぎ、秋が来ても模試での結果はでなかった。12月の最後のセンター模試で現役時代と大して変わらない点数を取ったときは本気で落ち込んだ。帰りの電車の中で悔しくて涙が止まらなかった。

「立志で学んだ『やりきる』ことの意味」

そんな中でさえも勉強を続けられたのは中高と「正しい方法で勉強をすれば必ず成績は上がる」ということを立志塾で学んでいたからだ。僕は中学1年生で立志塾に入ったが、塾の先生に言われた通りに勉強して定期テストで結果を出してきた。この時の体験があったからこそ結果が出ない中でもあきらめずにやり続けることができた。そうした中で、正しい勉強法とは先生や合格した先輩が教えてくれたことを「徹底的にやりきる」ことだと気づいた。これまでは言われたことを「こなしていた」が「やりきる」ことができなかった。例えば単語一つをとっても単語帳を「やりきる」とはその単語帳のどのページを開かれても即座に意味が出てくる状態にしていることなのだ。浪人の12月、結果が出ない中でそれに気づいた僕は勉強のすべての精度を上げ「徹底的にやりきる」ことを目指した。使用している参考書を絞り、その内容を即座に答えられる説明できるレベルまで完璧にやりきった。そうすると成績は少しずつ上がっていった。

浪人の冬になって結果は出始め、少し前までは厳しいと思われていた大学にいくつも合格できた。しかし第一志望の早慶には合格することができなかった。それでも志望校をあきらめられなかった僕は親に頼みこみ仮面浪人することに決めた。大学の授業に出席しながら、受験料を稼ぐために何人かの家庭教師のバイト



加茂高校卒
早稲田大学教育学部合格
2009年卒業

今井誠弥君

中学1年生から高校3年生まで立志塾に在籍。現役時代は、英語長文の音読の回数を可児校舎の4階までの階段の数を使い、ひたすら音読をした。河合の早慶オープン模試世界史全国2位、代ゼミの早大入試プレ世界史全国1位・英語1位、慶大入試プレ世界史全国2位の実績をもつ。一度は青山学院大学に合格するも、大学に通いながら、しかも一つの単位も落とさず、翌年早稲田大学教育学部に合格。現在は立志教育デザイン研究所に所属し立志塾の後輩達に毎月の受験コンサルで、自身の培った受験ノウハウを後進に指導する。

受験に才能は関係ない。

数々の挫折を乗り越え、僕が分かったこと。

をこなしながらの受験勉強が始まった。周りが大学生活を満喫している中で一人図書館や喫茶店で勉強することは精神的にきつかった。しかしここでも中高・浪人時代に自分を支えてくれた「必ず成績は上がる」という立志塾での経験があったからこそ辛い勉強に耐えることができた。

「幾多の挫折を乗り越え、早稲田大学教育学部に合格」

1年間の仮面浪人生活を経て早稲田大学に合格することができた。この結果は現役・浪人・仮面浪人と数え切れない挫折を乗り越えてきた結果である。この間一度でも諦めていたなら今の僕は絶対に存在しない。今受験という壁にぶつかっている受験生のみんなも絶対にあきらめずやりきって欲しい。やるべきことをやりきれば、必ず成績は上がる。成績が上がらないと悩んでいるならば今やっている単語帳なり参考書が本当に「やりきって」いるかどうか確かめてみるといい。必ずできていないところがあるはずだ。

「受験に才能は関係ない。」

受験に才能は関係ない。合格するために必

要なことは「諦めず」に「やるべきこと」を「やりきる」ことだけだ。「やるべきこと」はすべて立志塾が教えてくれる。受験生のみんなには立志塾を信じてぜひ「やりきって」欲しい。その努力は必ずみんなの将来を変えてくれるだろう。

Your actual achievement depends not just on the talent, but also on the capacity to bear defeat.

実際の成功を決めるのは才能ではなく、敗北に耐えうる能力である。

(2013/11/9 今井誠弥)



志望校を掴み取った今、毎月行われる「学習コンサルテーション」や年に2度の「センター英語で190点とる会」のアドバイザーとして活躍中。後輩の立志塾生に向けて勉強ノウハウを伝え続けてくれている。立志塾の学習メソッドはこうして未来へと受け継がれていく。